

15/08/27 08:00

Po001 時事通信

【オピニオン】★職務経験者が吹き込む新しい風 津市長・前葉泰幸

◇10市町村が大合併

2006年の10市町村による合併は、津市民のみならず津市職員にとっても大きな変化をもたらす出来事でした。組織改編による人事異動、人員削減による業務量の増加、旧市町村間の意思決定プロセスの相違など、それぞれの職場風土と職員意識の差異に多くの職員が戸惑い、試行錯誤を繰り返していました。私が2代目市長に就任したのは合併6年目となる11年、庁内はようやく落ち着きを取り戻し、合併時に旧市町村から引き継いだ優先解決事項に本腰を入れて取りかかろうとしていたころです。最終処分場や津市産業・スポーツセンター（後に津市出身の吉田沙保里選手が「サオリーナ」と命名）の建設など、合併による一時的な混乱を乗り越えたことで、職員たちは自信を持って大きなプロジェクトに取り組み、事業を軌道に乗せるべく奔走していました。



一致団結して新しい津市を作り上げようと懸命に努力する職員の姿を頼もしく思いつつ、私は、この職員集団をさらに元気よく活力のあるチームにするための方策について、思いを巡らせていました。市民サービスの量の充実と質の向上を図るため、市役所職員には、高い目標意識を持ち、その実現に向けて力を尽くすことが求められています。そのためには一人ひとりの能力を向上させるのみならず、互いに刺激し合うことで職員集団としての価値を増幅させることも必要となってくるからです。

◇職務経験者採用制度を創設

国や県から出向者を迎えば、プロパー職員に対して一定の刺激にはなりません。しかしながら、国と地方自治体両方の勤務を経験し、その後、外資系金融機関などの民間企業で働いた私には、公務員の同質的な考え方が交じり合うだけでは不十分に思えます。なんとかして民間の力を合流させることができないものか、その方法と時期を探る日々が続きました。

そこに絶好の機会が訪れます。津市は、合併後、職員数の2割減を達成するため、新規採用を抑えてきました。合併前の3119人を2500人まで減らすことができたことを受け、15年の新規採用数を大幅に増やすことになったのです。その一部に職務経験者採用枠を充てることとし、ついにかねてより温めていた職務経験者採用試験構想が具体化することになりました。

応募者は445人にのぼり、そのうち三重県外から88人（19.7%）、県内の津市外からは85人（19.1%）と、U・I・Jターンを促すしくみとしても機能しました。「あなたの知識、技術、能力等を活かして、津市でどのような活躍ができるか」を「ストーリー仕立て」にして書くよう求めたエントリーシートは力作ぞろい。2回の面接試験を突破した男性10人、女性5人が入庁しました。前勤務先は、金融機関、IT企業、報道機関、建設会社、建築設計会社などと多種多様、デザインや

劇場舞台管理の専門家あり、中小企業での経営管理や財務会計の責任者、海外勤務の経験者など、携わってきた職務も多彩。即戦力としての活躍を期待されての採用です。

◇職務経験者の価値を受け入れる

自分の職務経験を津市の仕事に役立たせたい、という明確な意図を持って業務に取り組む彼らは、プロパー職員にいい刺激となっています。

例えば、金融機関で債権回収業務に従事していた女性職員は希望通り収税課に配属されましたが、滞納者と向きあう姿は接遇面での模範とも言えるほどで、そのコミュニケーション能力は周囲から高く評価されています。

法人営業を担当していた男性職員は、企業誘致担当となり、営業力と折衝力を生かす一方で、これからは企業から尋ねられる規制や法律の知識を身に着けたいと意欲満々です。

これまでとは逆の立場に立つことで、行政側からは見えにくいポイントを指摘するケースもあります。建築物の設計をしてきた者が建築確認を出す立場になって、これまで自分自身が設計する時に法令上特に留意してきた点を若い職員に教示することにより、建築指導課全体の能力アップに貢献しています。

終身雇用制度が一般的でなくなってきた近年、マイナスイメージが強かった転職をステップアップにつながるものとして前向きに捉えようとする考え方も増えてきています。津市においても、受け入れる職員の側に転職者に対する否定的な先入観はほとんど見受けられません。むしろ、公務を熟知した自分たちが、今度は外部からの新たな見方、考え方に触れ、さらなる意欲を引き出す動機づけの機会としてとらえているようです。

◇市民に頼りにされる職員集団になる

職務経験者という異質の人材を受け入れ、交わり、刺激を受け、モチベーションの高まりが感じられる津市の職員集団には新たなパワーと価値が加わりつつあります。さまざまな経験を持った職員がそれぞれの能力を存分に発揮し、力を合わせて働くことで、市民にご満足いただける高い水準の行政をお届けすることができると思います。

それこそが、私が目指す「風格ある県都・津市」です。

(2015年8月27日)

前葉 泰幸(まえば・やすゆき)氏のプロフィール

1962年三重県津市生まれ。東京大学法学部卒業後、85年自治省(現総務省)入り。熊本県財政課長、自治省税務局固定資産税課課長補佐、京都市政策企画室長、宮城県総務部長などを経て、2006年デクシア銀行に転じ、東京支店副支店長。11年津市長に就任。14年三重県市長会会長。15年津市長再選。現在、三重県国道協会会長、三重県漁港漁場協会会長、全国モーターボート競走施行者協議会副会長。